

平成29年度

第1回大分県教育委員会 議事録

日 時 平成29年4月4日(火)

開会13時40分 閉会15時6分

場 所 教育委員室

平成 29 年度
第 1 回大分県教育委員会

【議 事】

(1) 議 案

第 1 号議案 平成 29 年度大分県教科用図書選定審議会委員の任命について

(2) 報 告

- ①平成 29 年度大学入試結果について
- ②佐伯鶴城高校のSSH採択の決定について
- ③第三次大分県特別支援教育推進計画について
- ④大分県立埋蔵文化財センターの開館について

(3) 協 議

- ①平成 30 年度（平成 29 年度実施）教員採用試験実施要項（案）について
- ②平成 30 年度（平成 29 年度実施）民間人校長採用選考（案）について
- ③大分県社会教育委員の委嘱について

(4) その他

【内 容】

1 出席者

委 員	教育長	工 藤 利 明
	委員	林 浩 昭
	委員	岩 崎 哲 朗
	委員	首 藤 照 美
	委員	高 橋 幹 雄
	欠席委員	松 田 順 子
事務局	理事兼教育次長	宮 迫 敏 郎
	教育次長	岩 武 茂 代
	教育次長	木 津 博 文
	参事監兼教育財務課長	森 崎 純 次
	参事監兼学校安全・安心支援課長	宗 岡 功
	参事監兼特別支援教育課長	後 藤 みゆき
	参事監兼文化課長	佐 藤 晃 洋
	教育改革・企画課長	能 見 駿一郎
	教育人事課長	法華津 敏 郎
	福利課長	中 村 均 子
	義務教育課長	米 持 武 彦
	高校教育課長	姫 野 秀 樹
	社会教育課長	阿 南 典 久
	人権・同和教育課長	樋 口 哲 司
	体育保健課長	井 上 倫 明
	屋内スポーツ施設建設推進室長	山 上 啓 輔
	教育改革・企画課主幹	下 鶴 直 哉
教育改革・企画課主査	三 浦 晃 史	

2 傍聴人

6 名

開会・点呼

(工藤教育長)

それでは、委員の出席確認をいたします。
本日は、松田委員が欠席です。

ただいまから平成29年度第1回教育委員会会議を開きます。

署名委員指名

(工藤教育長)

本日の議事録の署名委員でございますが、岩崎委員にお願いしたいと思っております。

会期の決定

(工藤教育長)

本日の教育委員会会議はお手元の次第のとおりです。
会議の終了は15時05分を予定しています。
よろしく申し上げます。

議 事

(工藤教育長)

はじめに、会議は原則として公開することとなっておりますが、会議を公開しないことについてお諮りします。

第1号議案及び協議の①、②、③は、人事に関する案件ですので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項ただし書の規定により、これを公開しないことについて、委員の皆さんにお諮りいたします。公開しないことに賛成の委員は挙手をお願いします。

(採 決)

(工藤教育長)

それでは、第1号議案及び協議の①、②、③は、非公開といたします。

本日の議事進行は、はじめに公開による議事を行い、次に非公開による議事を行いますので、よろしくお願いいたします。

(工藤教育長)

議事に入ります前に、今年度第1回目の教育委員会会議ですので、年度の初めに当たりまして、一言申し上げたいと思います。

本年度もまた一年間がスタート致しました。午前中には新しく採用された職員に訓示を致しましたが、平成20年の事件以来、9年目となりました。この間、改革をひたすら進めるということでやってまいりましたけれども、昨年度を振り返りますと、学力・体力の面において少しずつ成果が出始めていると思います。特に体力においては、全国でも有数の実績が出てきました。学力においては、中学校がまだまだですけれども、小学校は確実に九州トップクラスを維持しております。是非これを続けていく必要があると思っています。

一年間を振り返りますと、現場でいろいろな事件・事故、それから不祥事が連続して起こっています。

中でも体罰事案がいろんな形で起こっています。子どもたちを想う気持ちから先に手が出てしまったのかと思いますが、これは根絶しなければいけません。そして、スピード違反等の交通違反もかなりの頻度で発生しておりまして、こういうことにしっかり対応していくことが大事であり、その上で、これまで以上に子ども達に結果を残していくことが大事だと思っています。

引き続き改革を進めていきたいと思っていますので、委員の皆様方にも是非ご協力をお願いいたします。

【報 告】

それでは、報告第1号「平成29年度大学入試結果について」姫野高校教育課長から報告いたします。

(姫野高校教育課長)

報告第1号「平成29年度の大学入試結果について」報告いたします。1ページをご覧ください。平成29年3月に卒業した生徒の大学、短大等の進学状況であり、3月31日時点での数でございます。就職の状

況につきましては現在集約中であり、5月の教育委員会会議で報告させていただきます。左上の「1 大分県の進路状況について」をご覧ください。概況をまとめておりますが、そのうち「2 合格状況概要」の方で説明させていただきます。右端に平成29年3月の卒業生の状況を太字で示しております。卒業生数が7,627名、3段下の国公立大学の現役合格実数が1,650名、私立大学などは1人の生徒が複数合格した数を「延数」として書かれていますが、私立大が3,216名の合格、国公立短大が324名の合格という状況になっています。続きまして、右上の「3 国公立大学の現役合格率」につきましては、1,650名を卒業生数で割った数の21.6%であり、昨年度より0.1ポイント上昇しております。その下の「4 難関大学・難関学部合格者数」の状況でございます。右端欄をご覧ください。東京大学10名、京都大学14名、それから大分大学医学部医学科の合格者数は31名を含めて、難関大には合計242名となっており、昨年の249名より7名減少しております。また「1」の概況に戻っていただきまして、大分大学全体の合格者数は400名となっており、昨年度より23名増加しています。先ほども申しましたが、大分大学医学部の31名は過去5年で2番目の数となっています。特に、今春の大学入試では、例年以上に専門高校からも国立大学合格者が出ております。農業系高校からは2年連続で国立大学合格、工業系高校からはスーパーサイエンスハイスクールなど科学に関する活動に取り組んだ生徒を対象とする「大分大学サイエンス推薦」での合格、商業系高校から大分大学合格者数が倍増したことなどがトピックとしてあげられます。なお、農業系高校から農業大学校に昨年より4名多く進学しております。続きまして、2ページ目の資料をご覧ください。こちらは、主要私立大学別の合格者数です。関東、関西の大学や地元の大学を中心に、過去5年間の推移をまとめたものです。右端に大分県内3大学の状況をまとめておりますが、過去に比べて地元の大学への合格者数が増加している状況にあります。

今年度や過去の大学入試結果等の情報の活用を図りながら、今まで以上に生徒の進路実現を図るための組織的な授業改善、進学力向上の取組に一層努めて参りたいと考えています。

以上でございます。

(工藤教育長)

ただ今説明のありました報告につきまして、ご質問・ご意見等のある方はお願いします。

(首藤委員)

国公立大も私立大も難関大への合格者数が減っているように思いますが、卒業生数が減っていること以外に何か原因があれば教えてください。

(姫野高校教育課長)

最難関大である東大、京大の数については、4の表を見ていただくと大きくは下がっていませんが、一番下の合計数242名については、3年前の284名より減少していますので、県全体で取り組んでいかないといけないと思います。一番下の2つの欄にあるように、大分大の医学科が31名、その他の医学科が26名と増えてきており、医学部医学科の志望者が増えてきたことが原因と考えております。

(林職務代理者)

立命館アジア太平洋大学はイギリスの調査では、国内で国際性が一番高い大学と言われています。県内の県立高校を出た生徒が英語での授業に対応できているのかということを知りたいことはありますか。あるいは調査したことはないですか。

(姫野高校教育課長)

詳細な報告は受けていませんが、例えば、グローバルリーダー育成塾や大分上野丘のSGHの取組、安心院、由布高校など高校生がAPUの留学生と交流する機会が増えています。高校在学中から留学生と生きた英語で会話できることなどにより、APUへの進学が増えていると分析しています。

(林職務代理者)

APUの学生さんに会うことがあるのですが、英語にはすごく自信を持っています。留学生も日本人の学生も、卒業後に県内外問わず活躍しています。ローカルとグローバルの両面で成果が出て、APUの入学生が増えたということはとても良いことだと思います。

(高橋委員)

林委員の質問に関連しますが、日本文理大学への入学生が増えているのは、大学との地域連携が影響しているのですか。

(姫野高校教育課長)

詳細な分析ではありませんが、委員がおっしゃったように、知の拠点であるCOC+による大学の取組や、高校と地域の大学や産業界と連携する取組の効果が出ていると考えています。

②佐伯鶴城高校のSSH採択の決定について

(工藤教育長)

それでは、報告第2号「佐伯鶴城高校のSSH採択の決定について」

姫野高校教育課長から報告いたします。

(姫野高校教育課長)

報告第2号「佐伯鶴城高校のスーパーサイエンスハイスクール採択の決定について」報告をいたします。

資料1ページをご覧ください。概要にもありますように平成29年度からの文部科学省指定のスーパーサイエンスハイスクールに佐伯鶴城高校が決定いたしました。

指定内容といたしましては、平成29年度から5年間です。今回につきましては全国125校の応募から新規13校、その中に佐伯鶴城高校が入りました。平成29年度は新規13校と継続64校を含めて203校がSSHとして指定されたという状況です。

2ページをご覧ください。佐伯鶴城高校のスーパーサイエンスハイスクールの概念図でございます。テーマを「未来を創生する科学技術系人材の育成プログラムの開発」といたしまして、下の「◎」にありますように身近な地域課題からスタートし、生徒が主体的に課題を設定し、グローバルな視点で、課題解決に向けて探究するカリキュラムを開発していきます。①にありますように、学校設定教科「創生探究」を開発し、課題研究を中心とした科学的な探究活動を行っていきます。

特に②、③でございますが、東九州メディカルバレーに関わる企業・大学からご指導をいただきながら、医療系・理工系人材の育成を図ります。それから、③地域課題として南海トラフ地震等を想定した防災やエネルギー問題等を解決する人材育成のための探究活動を行っていくことで計画をしているところでございます。

なお、大学・企業の指導等を受けながら、ビッグデータなどの解析など数理科学の分野についても研究を図っていきたくと考えています。

さらに、その下にありますように「ふるさと創生プラン」ということで、小学校・中学校・高等学校の12年間をつなぐ探究型のカリキュラムの開発をめざしているところです。

1ページにお戻りください。3の主な協力者として、元グーグル日本法人社長である村上憲郎氏、京都大学名誉教授である吉原氏、甲南女子大学の村川教授、九州大学の溝口教授、大分大学の松浦副学長にお願いして、了承を頂いているところでございます。

「4 本県のSSH指定の状況」ということで、大分舞鶴、日田に続き3校目ということ。県南にもSSHを整備できたということ、教員の指導力向上を含めた県全体の科学技術系人材システムの構築を図ってまいりたいと考えております。

なお、「5 九州各県のSSH指定の状況」にありますように、大分県は現在3校指定を受けております。以上です。

(工藤教育長)

ただ今説明のありました報告につきまして、ご質問・ご意見等のある方はお願いします。

(林職務代理者)

コンピュータサイエンスが核となるのですか。

(姫野高校教育課長)

全国的に数学の中で統計分野の研究が進んでいません。ビッグデータなどのデータ解析、社会科学的な分野と数理科学的な分野を結びつけて防災に関する対応などを生徒に考えさせたいというのが学校のねらいです。

(高橋委員)

2ページのところで小・中・高と繋げていくとしていますが、将来の志望大学への指導や大分へのUターンに繋げていく仕組みを考えていますか。

(姫野高校教育課長)

小学校では佐伯の魅力・強みを知ってもらい地域に誇りを感じさせ、中学校では佐伯の課題を捉えさせます。それを踏まえ高等学校で大学や企業と連携しながら、具体的な解決策を考えさせたいと思います。

将来的には世界的視野で活躍し、佐伯を考えていく生徒、もしくは佐伯に戻って地域のリーダーとして創生をしていく生徒、そういった生徒を育てていきたいと考えております。

③第三次大分県特別支援教育推進計画について

(工藤教育長)

それでは、報告第3号「第三次大分県特別支援教育推進計画について」後藤参事監兼特別支援教育課長から報告いたします。

(後藤参事監兼特別支援教育課長)

報告第3号「第三次大分県特別支援教育推進計画について」報告いたします。

1ページをご覧ください。

今回の報告は、この資料の中ほどにありますように、第三次特別支援教育推進計画の骨子について報告するものです。

まず、骨子の背景についてご説明いたします。2ページをご覧ください。県立の特別支援学校16校の配置をお示ししています。大分、別府

を中心に周辺には知的障がいの学校があります。

次に、3ページをご覧ください。県立の特別支援学校在籍者数を示しておりますが、在籍者数は年々増加しており、下段の表にありますように高等部の生徒数は特に多い状況となっています。

4ページをご覧ください。太枠で囲んでいますように、大分地区、別府地区の知的障がいの在籍者数の増加に伴い、教室不足が深刻化する特別支援学校が出てきています。左上に教室不足数と記載してありますように、特に大分地区の新生支援学校と大分支援学校においては教室の不足が甚だしく、特別教室を教室として使用したり、プレハブを設置したりするなど物理的な面からの対応を迫られている現状があります。

5ページをご覧ください。これまでの推進計画とその実施状況になります。障がいのある子どもの教育は、平成19年の学校教育法の一部改正により特別支援教育が位置づけられ、大きな転換期を迎えました。大分県教育委員会ではこのことを受け、平成20年3月に大分県特別支援教育推進計画を策定し、県立特別支援学校の再編を行い、右の「具体的な実施内容」I-②にありますように、当時の別府養護、鶴見養護、石垣原養護の3校を、別府支援学校を本校とし、鶴見校と石垣原校を分校とする再編を行いました。

この後、特別支援学校の在籍者数の増加、小中学校では通常の学級に在籍する発達障がいの児童生徒への対応が課題となるなど、新たな視点から特別支援教育を推進する必要性が出てきました。そこで、大分県特別支援教育推進計画が終了する平成25年3月に第二次推進計画を策定し、現在はその進行中となります。

現在までの実施状況といたしましては、「柱1 すべての教職員の特別支援教育に関する専門性の向上」では、「特別支援学級及び通級指導教室の指導の手引き」を作成し研修で活用してまいりました。また、特別支援教育基礎研修の実施等に取り組んでまいりました。その結果、平成28年度には、幼・小・中・高の全ての校種において、特別支援教育に関する研修受講率が95%を上回るという結果になりました。

「柱2 特別支援学校の教育環境及び教育内容の整備・充実」については、平成25年度に中津支援学校の新設、高等部分教室であった日出、由布、佐伯、竹田の4校に高等部を新設いたしました。また、平成27年度には、第二次大分県特別支援教育推進計画に関するフォローアップ委員会を開催し、別府支援本校、鶴見校、石垣原校、南石垣支援の4校の検討を中心に「大分県の特別支援学校の今後の在り方に関する意見」としてまとめていただきました。この内容は、次期の計画に活かしていきたいと考えています。

「柱3 幼稚園、小・中学校、高等学校における特別支援教育の推進」については、平成28年4月に「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」の施行に合わせ、高等学校における「合理的配慮提供手続

きマニュアル」を作成いたしました。平成27年度末に全ての高等学校に配布し、その結果、全ての高等学校で自校版のマニュアルを作成しております。

以上が、「第二次特別支援教育推進計画」の実施状況と成果の概要であります。

現計画は平成29年度で終了しますが、県立特別支援学校には、児童生徒数増加に伴う教育環境整備という課題や一般就労など一人一人が望む進路実現といった大きな使命が明確に見えてきました。

また、先程申し上げた平成28年4月の「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」の施行により、幼稚園、小中学校、高等学校では、特別な支援を必要とする子どもへの教育内容を充実させることが喫緊の課題となっております。

そこで、現計画終了後に取り組む新たな計画の策定が必要であると考えております。

再度、1ページをご覧ください。第三次推進計画の骨子についてご説明いたします。

これまで、国の動向や骨子検討のための委員会を開催し、いただいた意見を踏まえ、基本方針を「障がいがある子どもの自立や社会参加に向け、一人一人の教育的ニーズに応える物的・質的環境を整え、インクルーシブ教育システムの構築をめざす」といたしました。また、黒い「◆」で示していますように2つの観点を作成し、観点ごとの検討項目を設定してします。

特に、特別支援学校等の教育環境整備については、フォローアップ委員会から別府地区と盲学校、聾学校を含む大分地区の特別支援学校の再編、高等特別支援学校についての提言もいただきましたので、検討をしていきたいと考えています。

また、「(3) 実施期間及び年度別計画」につきましては、基本方針の具体を明らかにすることと併せて定めてまいりたいと考えています。

計画策定までのスケジュールでございますが、まず、29年4月に学識経験者等による検討委員会を発足いたします。この検討委員会での協議結果をもとに、6月に素案、9月に計画案を作成し、12月には成案をめざしてまいります。スケジュールの詳細は、検討委員会の開始までに明らかにし、計画的に取り組んでまいりたいと考えています。

以上でございます。

(工藤教育長)

ただ今説明のありました報告につきまして、ご質問・ご意見等のある方はお願いします。

(林職務代理者)

教室が足りないという喫緊の課題があるわけですが、防災上で問題のある場所もあるという話も聞いていますので、防災上の問題についても検討する必要があります。二次計画でもやらなければならないところだったと思いますので、是非盛り込まれるとよいと思います。

(首藤委員)

5ページの柱3に幼稚園、小中学校、高等学校における特別支援教育の推進とありますが、特に高等部になって生徒数が増えているのは、小学校、中学校のときは何とか特別支援学級でやれたけれども、高校に入ると難しいということで、高等部に進学するのでしょうか。

聞くところによれば、小・中学生までは小・中学校に通い、高校生ぐらいになって特別支援学校に通うということも聞いています。その辺の実情を教えてください。

(後藤参事監兼特別支援教育課長)

県といたしましては、平成22年度に特別支援学級の増設計画を立て、200学級の増設をまいりました。当時336学級であったものが、平成28年度には540学級と、特別支援学級で学ぶ児童生徒の数が増えております。

特別支援学級は、通常の学級とカリキュラムが異なっておりますので、高等学校に進学しないでそのまま特別支援学校への進学を選ぶ生徒が増えてきているのも実情です。また、特別支援学校での一般就労率が段々と上がってますので、特別支援学校に行っても一般就労ができるということで選ぶ保護者や生徒がいることも事実です。

(首藤委員)

高等部への進学を希望する方はますます増えていくということになるのでしょうか。

(後藤参事監兼特別支援教育課長)

予想は難しいのですが、特別支援学校全体での子どもの数は横ばいになってくると予測しております。

(首藤委員)

柱の3の高等学校における特別支援教育の推進というところにも力を入れていただきたいと思います。今、高等部に通学されている生徒の中にも、普通の高校で丁寧な指導をしていただければやっていけないかと思われる方もいらっしゃるような気がしています。その辺の就学指導も併せて進めていただきたいと思います。

④大分県立埋蔵文化財センターの開館について

(工藤教育長)

それでは、報告第4号「大分県立埋蔵文化財センターの開館について」佐藤参事監兼文化課長から報告いたします。

(佐藤参事監兼文化課長)

報告第4号「大分県立埋蔵文化財センターの開館について」報告いたします。

来る4月22日、大分県立埋蔵文化財センターが開館いたします。本日はその概要を説明させていただきます。

資料の1ページをお開きください。

まず、[施設の概要]にありますように、旧ホール棟を改修して収蔵庫に、旧レストラン棟を改修して歴史体験学習館としています。

そして、旧展示棟には、常設の展示室として、「豊の国考古館」と「BVNGO大友資料館」を備えています。

資料2ページのイメージ図をご覧ください。

「豊の国考古館」では、本県で出土した遺物を旧石器時代から江戸時代まで時代別に紹介しております。

「BVNGO大友資料館」では、大友氏遺跡の出土品を中心に大友氏の栄華を紹介いたします。このBVNGO大友資料館の「V」の字について補足いたします。日本を描いた近代的地図として最も古いとされているポルトガル人の地図製作家テイセラが作成し1595年に刊行された「日本図」では、九州の大半を指し示すように「BVNGO」の大きな文字が表記されています。当時のヨーロッパにおいて“豊後”及び大友宗麟が大きく認識されていた証として、大友氏の栄華を示す意味で当時のヨーロッパでの表記を使用することとしました。

3ページをご覧ください。

開館記念企画展は「大友氏の栄華～宗麟を巡る7つの鍵～」と題し、戦国大名大友氏の最盛期を築いた「宗麟」の実像に迫りたいと考えております。

今回、九州初展示の史料3点を紹介します。

まず、1点目は、国際日本文化研究センター所蔵の『全世界の教会史』です。1600年代にベルギーのアントワープで出版され、全世界のキリスト教の歴史が記述されています。その中に大友宗麟の話が挿絵とともに大きく取り上げられています。17世紀のヨーロッパで大友宗麟が広く知られていた状況がよくわかります。

続いて4ページをご覧ください。

2点目は、東京カテドラル聖マリア大聖堂所蔵の「ザビエル胸像」で

す。胸部にはザビエルの骨が納められています。

3点目は、淡路文化史料館寄託の「木碎之注文^{きくだきのちゆうもん}」という史料です。16世紀末に作成された大工技術書で、万寿寺など大友氏関連の建物について工法や材料に関する記述があります。

その他、大友氏遺跡出土の「ヴェロニカのメダイ」や「唐枕」など貴重な歴史資料や美術品等、約750点をご覧ください。

入館料は無料となっていますので、ぜひ多くの皆様に足を運んでいただきたいと思えます。

埋蔵文化財センターは、郷土の歴史を学ぶ場や考古学の発信拠点として皆様に親しまれ、本県の文化や観光の振興にも貢献する魅力的な施設をめざしていきたいと考えています。

以上でございます。

(工藤教育長)

ただ今説明のありました報告につきまして、ご質問・ご意見等のある方はお願いします。

(高橋委員)

当手を復元したもので、例えばザビエルの衣装など展示する予定はありますか。

(佐藤参事監兼文化課長)

当時のそのものというのなかなか難しい部分もありますが、その後には描かれたザビエルの肖像画など、複製も含めていろんな観点からご覧いただけるように集めて、今回の企画展で出したいと思えますし、今後も工夫していきたいと考えています。

(林職務代理者)

埋蔵文化財センターと歴史博物館や先哲史料館との違いをどのように出していきますか。

(佐藤参事監兼文化課長)

埋蔵文化財センターは史料そのものが埋蔵文化財を中心としたものですが、埋蔵文化財だけではなく文書資料等も含め、わかりやすい展示を工夫したいと考えています。

いずれにしても3施設がそれぞれの特徴を出し、連携しながら、県民にわかりやすく伝わる工夫を行っていききたいと考えています。

(岩崎委員)

市町村教育委員会との連携や児童生徒が見学できる体制整備をどのよ

うに考えていますか。

(佐藤参事監兼文化課長)

小学生の社会見学や授業で埋蔵文化財センターを使っていただくことや、センター職員が出前授業なども積極的に行うなど市町村教育委員会との連携を図っていきたいと考えています。

(高橋委員)

埋蔵物はすべてセンターに移動させたのですか。

(佐藤参事監兼文化課長)

旧ホール棟を改修した収蔵庫に発掘された遺物はすべて移動し保管しています。

(工藤教育長)

それでは、先に非公開と決定しました議事を行いますが、その前に、公開でその他、何かございませんか。

では、先に非公開と決定しました議事を行いますので、関係課室長のみ入室とし、その他の課室長及び傍聴人は退出してください。

4課（教育改革・企画課、教育人事課、義務教育課、社会教育課）
入室

【議案】

第1号議案 平成29年度大分県教科用図書選定審議会委員の任命について

(工藤教育長)

それでは、第1号議案「平成29年度大分県教科用図書選定審議会委員の任命について」提案しますので、米持義務教育課長から説明いたします。

(説明)

(工藤教育長)

ただいま説明のありました議案について、審議を行います。ご質問・ご意見のある方はお願いします。

(質疑・意見等)

(工藤教育長)

それでは、第1号議案の承認についてお諮りいたします。第1号議案について、承認される委員は挙手をお願いします。

(採 決)

(工藤教育長)

第1号議案については、提案どおり承認します。

【協 議】

①平成30年度（平成29年度実施）教員採用試験実施要項（案）について

(工藤教育長)

それでは、協議の①「平成30年度（平成29年度実施）教員採用試験実施要項案について」法華津教育人事課長から説明いたします。

(説 明)

(工藤教育長)

ご質問・ご意見のある方はお願いします。

(質疑・意見等)

(工藤教育長)

今回の協議の結果を踏まえ、準備を進めてまいります。

②平成30年度（平成29年度実施）民間人校長採用選考（案）について

(工藤教育長)

次に、協議の②「平成30年度（平成29年度実施）民間人校長採用選考案について」法華津教育人事課長から説明いたします。

(説 明)

(工藤教育長)

ご質問・ご意見のある方はお願いします。

(質疑・意見等)

(工藤教育長)

それでは、今回の協議の結果を踏まえ、準備を進めてまいります。

③大分県社会教育委員の任命について

(工藤教育長)

次に、協議の③「大分県社会教育委員の任命について」阿南社会教育課長から説明いたします。

(説 明)

(工藤教育長)

ご質問・ご意見のある方はお願いします。

(質疑・意見等)

(工藤教育長)

それでは、今回の協議の結果を踏まえ、準備を進めてまいります。
その他ありませんか。

(工藤教育長)

それでは、最後にその他、何かございますか。
ないようですので、これで平成29年度第1回教育委員会会議を閉会
します。
お疲れ様でした。